

萩市立むつみ小学校で「森の学校」を実施

令和6年11月21日（木）、萩市立むつみ小学校3年生及び4年生の8人を対象に、地元林業研究グループ「むつみ林業振興会」が森の学校を行いました。

この活動は、次代の担い手である子供たちを対象に、森林の働きや林業の必要性などについて、体験を通して理解を深めてもらうために行われました。

児童たちは、シイタケの育て方の説明を聞いた後、振興会の指導のもと、原木にドリルで穴をあけ、金づちを使い種駒を打ち込みました。初めて電動ドリルを扱う児童もあり、最初は戸惑っていましたが、徐々に慣れ、次々と穴をあけ、種駒を打ち込んでいました。

次に、一人1本ずつ原木を持ち、校内のほだ場にかり伏せをしました。ほだ場では、2年前に駒打ちした原木からしいたけが発生しており、児童たちが嬉しそうに収穫をしていました。

児童たちからは、「今日、種駒を打った木からいつシイタケがでるの」や「シイタケがでてきてくれるのが楽しみ」といった感想が聞かれました。

むつみ林業振興会では、今後もむつみ小学校のシイタケづくりを見守っていくこととしており、シイタケづくりを通じて、森林・林業に興味を持ってもらえることを期待しています。



シイタケ種駒打ち



原木のかり伏せ